

卷頭言

ChatGPT使ってますか？！

秋田腎不全研究会 会長

羽渕友則

〔秋田大学大学院医学系研究科腎泌尿器科学教授
秋田大学大学院医学系研究科研究科長〕

今年のノーベル生理学・医学賞には坂口志文先生、化学賞には北川 進先生、との嬉しいニュースに大変喜んだ。ところで、同物理学賞には量子に関する研究でジョン・クラーク (John Clarke) 氏、ミシェル・デヴォレ (Michel H. Devoret) 氏、ジョン・マーティニス (John M. Martinis) 氏に授与されることが決まった。私は量子に関しては、全く素人であるが、デヴォレ氏はGoogleの量子AI部門に属しており、マーティニス氏もかつてGoogleで量子AIに関わっていた人物である。2024年のノーベル化学賞を授与されたデミス・ハサビス (Demis Hassabis) 氏およびジョン・ジャンパー (John Jumper) 氏は其々Google DeepMindのCEOとDirectorでGoogleの研究者である。同年の物理学賞のヒントン (Hinton) 氏も“AIの父”と称され、AI開発でノーベル賞を授与されたが、2013～23年にはGoogleに所属していたという。Googleは長年量子コンピューターやAIの開発に興味をもっており、Googleが創設された2000年ころから研究に注目していたが、2010年ころより本格的に長期的・基礎的研究にも参入し、AIや量子の研究も行っていた。これらの成果の一端がノーベル賞受賞につながったと言えるが、大企業が長期的・基礎的な研究や開発に大きな予算をかけ、自社のためだけでなく、人類の科学やWell-beingの進歩に貢献していることに感心する。本来は大学が行うべきであった“長期的・基礎的な領域”を大企業が参入して成果を産み出していると言えるだろう。日本の大企業もこれくらいの先見性と度量が欲しいところであるが、さてさて…

さて、本題はAIの活用である。これも私は素人であるが、ChatGPTやGoogle Geminiをすいぶん重宝している。トンデモない回答が返ってくることもあるが、概ね素晴らしい回答とレスポンスである。秋田大医学部附属病院ではCTから骨転移のスクリーニングをやってくれるAIソフトが導入されて、これも大変役に立つ。患者さんとの会話から、病歴、アヌムネをまとめてくれるAIソフトも優れものらしい。透析医療関連では「除水量・体重・水分管理」「カルシウム・リン・PTH管理」「食事・栄養管理」などでAIによる支援が考えられている。自分の食べる食事を写真に撮れば、およそのカロリーを計算してくれるAIソフトがあるくらいなので、このような管理支援システムやアプリの登場も時間の問題であろう（ただし写真から水分や液体量、リン、カリウムなどの推定は困難なようだ。秋田腎不全研究会の貴方、開発しませんか！）。ちなみに私は退院サマリー

や看護サマリーの自動作成AIソフトの導入にも賛成である。今やAIを導入するか否かを論ずる時代ではなく、いかに良質のAIソフトを産み出し、いかに正しく、上手くAIを利用するかの時代だろう。是非皆さんも、診療、教育、研究、事務業務そして私生活でもAIも活用していただきたい。もちろん盲信はいただけませんが…

9月に米国のフェニックスという都市での学会に参加し、数日滞在した。学会でのトピックスであるAI医療技術や遠隔手術、そして手術支援ロボットの進化に驚いたが、何よりも街中にフツーに走っている無人タクシーに驚いた。無人だと怪しい運転手に被害を受ける可能性も無く、女性にはこの無人タクシーのほうが人気があるようである。この無人タクシーはWaymoという会社が運営しているが、これもGoogleの自動運転プロジェクトから始まっている。規制や安全（過？）重視でなかなか進まない日本との差を大いに感じて帰国した次第である。

（私はGoogle、OpenAIやWaymoとの利益相反はありません。また本文の一部は秋田大学医学部“本道通信”での研究科長の巻頭言と重なっていることをお断りします。）